

も施行可能です。しかし癌の根が深いと、穿孔したり（胃に穴があくこと）、取り切れず癌が残ってしまうため施行が困難になります。よっていかに早期の段階で見つけるかが、重要になってきます。

症状が出てからでは遅いことが多いです。人間ドック、検診などの機会を利用し、定期的に検査を受けるように心がけましょう。

最後に二言。

- ・当院では胆道系の内視鏡治療（総胆管結石など）も行っています。（図3）
- ・またダブルバルーン内視鏡を用いて、小腸（胃と大腸の間の腸管）の観察も行うことが可能です。

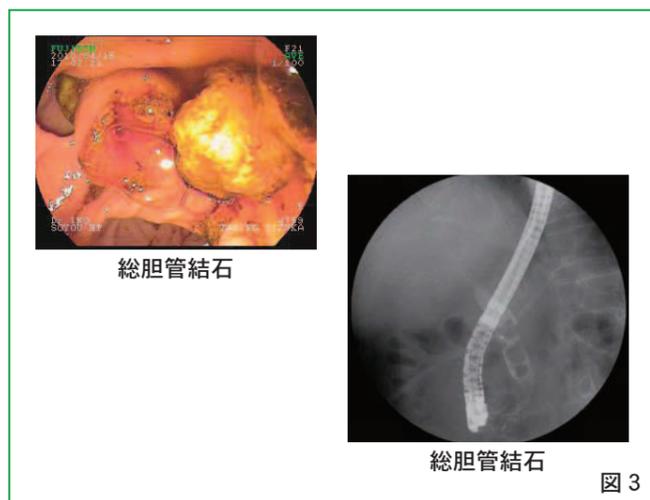


図3

特集 おいしく食べて、病気予防

食べることは人間生活の上で最も基本的なことであり、大きな楽しみでもありますよね。そして、病気治療や予防においても実はとっても大切なことです。そこで、今月から様々な病気に適した食事やメニューをシリーズで紹介してゆきます。よろしくお願いいたします。

第1集 嚥下障害（飲み込みが悪い）の方にやさしい「ソフト食」について（その一）

山都町立蘇陽病院 栄養科調理師 甲斐 靖
監修 院長 水本 誠一

年齢を重ねてゆくと、食べものを飲み込む（嚥下）時に“むせこむ”ことがありますよね。これは嚥下するとき首やのどの筋肉が協調して十分に動かないために、食べ物や水分の一部が食道ではなくて気管（空気の通る道）に入り込んでおきる現象です。脳梗塞などの後遺症で起きることが多いのですが、単なる老化現象のこともあります。これが原因で肺炎（嚥下性肺炎）を起こすこともあるのです。これらの患者さんにも食べやすいように工夫されたのが「ソフト食」です。

しっかりと形があり、口への取り込みがよく、上あごと舌でつぶせる硬さで、飲み込む時に滑りが良い、しかもおいしそうに見える、などの条件が求められます。蘇陽病院ではこれらの条件を満たすような「ソフト食」をいろいろと試作しながら提供しています。写真のような出来栄ですが、おいしそうに見えますか？ それでは、ご家庭でも参考にいただけるように、次号からその詳細な内容について解説してゆきます。



蘇陽病院だより

～蘇陽病院基本理念～

「へき地医療拠点病院として、患者様に信頼される良質な医療を提供し、地域住民に親しまれる病院を目指します」

特集 知って得する健康講座 第24集 早期胃癌の内視鏡治療

山都町立蘇陽病院 医師 井野裕治

だいぶ暖かくなってきましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？

今回は私の生業とも言える内視鏡（胃カメラ、大腸カメラ）についてお話しさせていただこうと思います。

まず内視鏡と聞くと痛い、苦しいというイメージを連想される方が多いと思われます。しかし当院では鎮静薬および咽頭麻酔を十分に行うこと、無理のない挿入手技を実践することで患者さんの苦痛が少なくなるように努めています。

以前は内視鏡と言えば検査（観察）のみしかできなかったのですが、近年では治療を行う内視鏡が盛んになりました。代表的なものが大腸の良性ポリープを切除する大腸ポリペクトミーです。（図1）

また、たとえ悪性（癌）であっても、早期の癌であれば内視鏡で切除することが可能です。お腹を切らないため、術後の傷跡もなく、何よりも胃袋が小さくならないため、術後に食事が摂れなくなり激やせすることがありません。

方法としては病変の直下にヒアルロン酸を注入し、切りしろを大きくした後、特殊な電気メスを用いて病変の周囲を切除していきます。当院には3種類の電気メスを用意し、病変にあった種類の電気メスを選択するようにしています。図2は当院で施行した治療の1例です。

この処置はどんなにサイズが大きくて

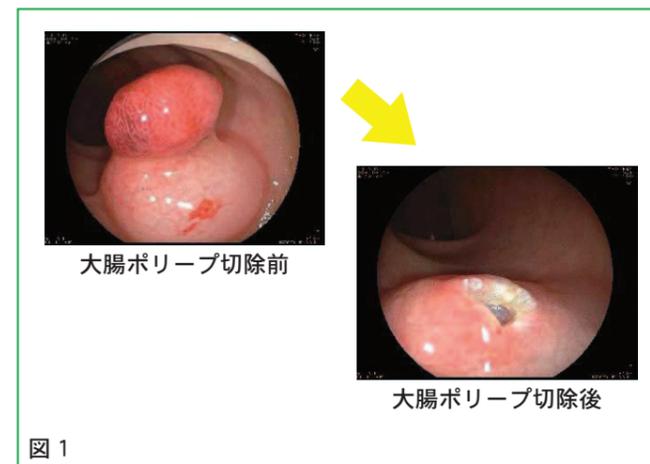


図1

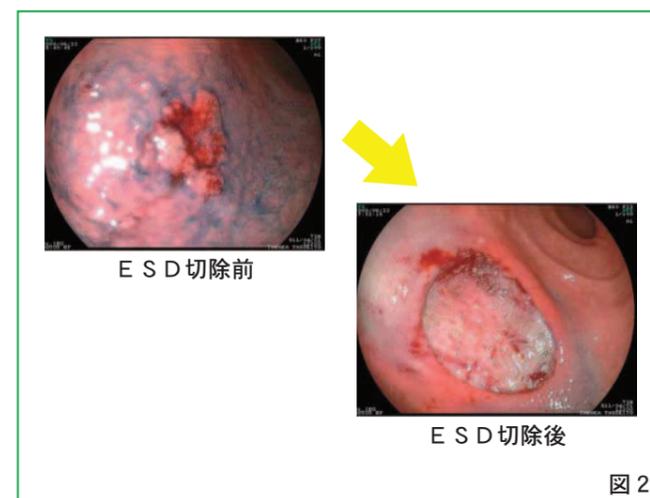


図2